

## 「信仰による義 1」

2018年09月05日

ローマの信徒への手紙3章21節～26節 ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。

パウロは、「正しい者はいない。一人もない」と言った。「律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。」パウロは、神を信じ、隣人と共に愛し合いながら生きる術を知らない人間の罪を認識せざるを得なかった。律法厳守を宗教的生命として生きていたパウロの行き着いた絶望的な人間理解であった。

ところが、そこから一転し、全く新しい世界が広がることを語る。「ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。」律法とは関わりなく、イエス・キリストを信じる者に神の義が示された。「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。」人は神の前に義とされ得ないが、キリスト・イエスの十字架の贖いを通して、恵みにより神の義に与ることができる。「神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。」神はキリストを遣わし、キリストの十字架の血によって、信じる者の罪を償う供え物とし、罪の赦しを与え、神の義を示された。律法によっては義に達しえないが、イエス・キリストの十字架の贖いによって、神の義が一方向的に与えられる。この神の義は何の差別もなく、無償で与えられる。まさに、喜びの「音信」である。

パウロの宣教力は圧倒的である。それは、キリストの福音そのものに真の力があつたからであり、宣教したパウロの桁外れの熱意があつたからである。私は同時に、当時の宗教的事情が背景にあつたからではないかと思っている。人々は神を信じることは当然で、皆自分の納得のいく宗教団体に所属していた。それらの宗教団体は、団体が説く規則を厳格に守る厳しい自己犠牲と多大な献げ物を求めた。熱心な自己犠牲と献身した者が高い宗教性を持つ者として人々からの尊敬を集めた。自己放棄の大きさを競い合つて、ステータスを得ようとしたのである。そのような宗教的な文化の中で、パウロは、自己犠牲も献身も必要ない。イエス・キリストの十字架によって誰でも、既に神に義とされている。人間の側からの努力とは関わりなく、恵みによって、神と共にある救いが与えられていると説いた。この教えはがんじがらめに縛られていた人々を真に解放した。その喜びが人々に圧倒的に受け入れられたのである。これは、私の福音であつた。立派な人間にならなければならないと力む必要はなく、イエス・キリストは取るに足りない無力な私をそのまま「よし」と是認してくださる。律法から解放され、神の義が与えられる福音である。